

令和7年2月25日 佐藤

～ お参りで乗り切る！まだまだ寒さが続くこのシーズンも元気に過ごそう！～

## 「咳の爺婆尊」で風邪除け祈願

受験シーズンでもあるこの時期、区内の弘福寺（こうふくじ/向島 5-3-2）には、境内にある石像「咳の爺婆尊（せきのじじばそん）」へ「風邪除け」の祈願のために、参拝客が訪れます。この石像は、制作者である風外（ふうがい）和尚の名にちなんで、「風邪に効き目がある」と古くから庶民の信仰を集めてきたものです。

「咳の爺婆尊」は、高さ約55cm×幅約45cmの「爺像」と高さ約75cm×幅約60cmの「婆像」の2体が寄り添うように、小さなほこらの中に奉られています。「爺像」は口の中の病気に、「婆像」は咳に効くと一応区別されていますが、二体が一緒になっているため、まとめてお参りすると、より一層ご利益があるといわれています。また、全快した折には、そのお礼の品として「煎り豆」と「番茶」を供える風習があり、石像の前には、それらがお供えされています。

昔から、冬になると多くの方が参拝に訪れており、1月から2月頃にかけて風邪が流行する寒い時期には、高齢者や入試を控えた受験生や家族などが訪れ、手を合わせる姿が見られます。新型コロナウイルス感染症でも、多くの参拝があったとのこと。

さらに、同寺では、咳によく効くという『せき止め飴』と『風邪除けのお守り』（各300円）も販売されており、参拝の際に購入する方も多くいるということです。

まだまだ寒さが続くこの時期に、区内のまち歩きとともに、「咳の爺婆尊」参りで風邪予防祈願を試みてはいかがでしょうか。

〈写真〉 咳の爺婆尊



参拝者の様子



### 〈参考〉「咳の爺婆尊」由緒

弘福寺の由緒書きによると、この「咳の爺婆尊」は、江戸寛永年間（1624年～1644年）の禅僧・風外（ふうがい）が、相州（今の神奈川県）真鶴の山中の洞窟で求道生活をしていた際に、亡き父母を想い、その地の岩石で彫ったもの。風外は、この像を洞窟内に安置し、朝夕の供養を怠らなかつたといわれている。

その石像の見事な出来栄と、風外の温情に胸を打たれた当時の小田原城主・稲葉正則（いなばまさのり）公は、自分の屋敷に請い受けて供養するようになり、その後、正則公が領地替えとなったため、稲葉家の菩提寺である弘福寺に寄贈された。そしていつの頃からか「風外は風の外」。だから風邪に効く」という言い伝えが広まり、現在まで地域住民を中心に根強く信仰されている。

〈問合せ〉 弘福寺 03-3622-4889

お問合せは、午後5時までにお願ひします。（広報広聴担当 03-5608-6220）